

※※※※※※※ 趣味に生きる(第57回) ※※※※※※※



人に寄り添える コンシェルジュバーテンダー



内田 高史

平成がいよいよ終わる4月18日夜、都内のとある病室。鎮痛剤の管が繋がり、酸素マスクをして、苦しそうに息をする女性の傍に寄り添う一人の男性。

「治ったら盛大に誕生日パーティーをやりたいの。でも準備はできないからあなたにお願い出来る？」

「うん、全力でやるよ。どうせやるならあのバーテンダーさんも呼んで、みんなにも演奏してもらってさ、フェスみたいにやっちゃおうよ。」

「だから、早く治そうね。」

音楽で結ばれた二人が語り合った約束の夜。

平成最後の日、4月30日23時45分 関東県内のとあるホテルバーラウンジ。

「もういいから片っぱしからボトル空けてでんどん出してくれ！」

「お客様まだまだ並んでます！」

「あるだけのグラス全部出して！」

想定5倍以上のお客様が来店された「令和カウントダウンパーティー」はまさにお祭り状態で佳境を迎えていました。

耳につけたインカムに響くスタッフの叫びを聞きながらバーカウンターに並ぶゲストに笑顔

で、そして冷静にお酒を注いでいくと、目の前はあっという間に空のボトルで溢れていく。

「5、4、3、2、1、ゼロ～！！！！」

パンパンパンッ！と鳴り響くクラッカーと盛大な拍手が鳴り響く空間。

新しい時代を迎えた喜びと、それ以上に無事イベントが成功に終わった達成感と充実感を感じる瞬間。

この、まるでドラマや映画のように、毎日いろんな事が起きるバーラウンジが、日々私が研鑽を積んでいる場所です。

23歳からずっとホテルマンとして「ゲストに寄り添うサービス」を胸に十数年、様々なホテルでレストランからフロントまで幅広い仕事をしてきました。そして今、お世話になっているホテルから白羽の矢が立ち、2年前のゴールデンウィークより、カウンターに立っています。

当時、私は凍結した路面で足を滑らせて右手を骨折しており、ゲストの皆様からお褒めのアンケートを頂く時も「右腕を骨折している人のサービスが良かった！」と謎のインパクトを残している時期。

レストランマネージャーより「内田君、骨折している所悪いけれど、来月からバーよろしく！ゲストを満足させられるスタッフは他にいないから頼むよ！」と伝えられた時の動揺は忘れられません。

まだ完全にくっついていない右腕で懸命にシェイカーを振り、必死に詰め込んだ知識で足を震わせながら、超繁忙期のカウンターに立ち続けたのを覚えています。

バーテンダーというと、お酒が強いイメージを持たれる方が多いと思いますが、私自身はめちゃくちゃ弱いのです。缶ビール1本で真っ赤っかに出来上がるほどで、一人でいる時は全く飲みません。

そんなわけでお酒への興味は全くありませんでした。

そんな私が今、バーテンダーとして日々本気で取り組む理由は、私に白羽の矢がたった理由と同じく「お客様への想いの強さ」に尽きます。

初めは「頼まれごととは試されごと」という自身のポリシーに沿って試行錯誤の日々、お酒に詳しいお客様も多く、どんなオーダーが飛んでくるのか？毎日足が震え、冷や汗を流していました。

しばらくそんな日々が続く中で、ある時大きな「気づき」を得ました。

ある女性のお客様に「私のように、女優っぽいイメージのカクテルを作って！」とオーダーされたのです。

「私のイメージでカクテルを作って」なんて映画のようなオーダーが本当に飛んでくるとは思っていませんから「え？何それ？？どういう事？？」と頭はパニックです。

それでも顔は笑顔を保ち、会話をしながら頭をフル回転させます。

イメージを固める為の時間は最大で1分、その中で集めたキーワードからカクテルをイメージします。

「夕方前の午後4時」「昼下がりの穏やかなバーラウンジ」「情熱的な女性」「女優」、、、、。

「まとまった、、、。」心の中で呟いて

その女性の前にブランデー、紅茶のリキュール、巨峰リキュール、白葡萄ジュース、ダーズリンティー、レモンジュースを並べてシェイカ

ーを振ってグラスに注ぎ、最後に赤いザクロのシロップを沈めます。

穏やかな昼下がりに、仕事を終えて一息つく女優が嗜む大人の紅茶カクテル。

「うん！すごく美味しい！こういうの飲みたかったの！」

そう目を見開きながら喜んでくださるお客様を見た時に「そうか！形のないサービスの仕事の中で、数少ない(想いを形にできる仕事)がバーテンダーなんだ！」と確信しました。

この感動を体現していきたい！そして場所や内容にこだわらず「その人の想いをグラスに込めたい」その想いが募り、2018年の春先より、何処へでも飛んでいき、どんな願いにも応えるフリーランスのプロバーテンダー「コンシェルジュバーテンダー」として独立するために準備を始めました。

ホテルバーではやれることが多い反面、どうしても「会社」という意思が絶対ですので、やれない事も沢山あります。組織が大きく、ましてや保守的なホテル業界なら尚更です。

自分の今後のキャリアを考えても、完全な独立の時期はそう速くないと考えている時期でもありました。

「コンシェルジュバーテンダー」とは出張バーテンダーをスタートする際に悩み抜いた末に付けた名前、ホテルのコンシェルジュのように「NOと言わずに様々なリクエストに応える」そしてバーテンダーとして「その人の想いをグラスに込める」プロフェッショナルという意味を込めて名付けました。

そんな数年後の独立を目指して準備をはじめた矢先、諸事情で今仕事をしているホテルを突然離れることとなり、状況は一変。いきなり独立するにはまだまだ学びたいことも多く、戸惑いでしたが周囲の後押しと支援もあり、秋には出張メインのコンシェルジュバーテンダーとして事業をスタートしました。



初めての仕事は10月31日、お茶の先生から受けた「お茶会でのカクテル創り」

由緒ある茶室の中で着物を着て正座をして、季節のフルーツやお茶を使いながらカクテルを振る舞うという初めての経験。

親子での参加も多く、お子様には急速「カクテルスクール」を開いて一緒にシェイカーを振ったりなど、想像をはるかに超える大好評で、

終わりの時間ギリギリまでカクテル創りに勤しみました。その時、一番カクテルを気に入ってくださり、一番おかわりをされた男性に「良かったら今度妻のために出張してきてくれないかな？」と声をかけられました。

「実は妻は癌なんだ。今は元気だから美味しいカクテルを飲ませて元気付けたいんだ」

そう話す男性の姿に胸が締め付けられたのを

覚えています。

「そういう事なら何が何でもオファー受けますよ」そう約束をして別れたものの、いくら待ってもオファーは来ませんでした。

私の心に引っかかったまま時間は過ぎ去り、今年の2月にホテルから「メインバーテンダーとして戻って来てくれないか？バーを立て直したいんだ」と呼び戻しのオファーをもらい、悩んだ末に「兼業が可能な契約を結べるなら、研鑽を積むために戻らせて頂きます」と答え、ホテルのバーカウンターに再び立つこととなりました。

ホテルのバーテンダーとしてカウンターに立ち、オファーがあればコンシェルジュバーテンダーとして出張し、カクテルコンペやソムリエ試験の勉強に没頭する日々、、、。

ふと「奥様の容体、どうなのかな、、、」と気になりながらもどうお声をかけていいかもわからず、気づけば桜が散り、新緑の美しい季節がやって来ました。

奥様が亡くなられたことを知ったのは4月22日のご主人様のSNSの投稿。

刻一刻と変化する状況、その中でも最期まで諦めず、幸せな時間を作ろうとされているご主人様の暖かい愛情に包まれた定期的な投稿に、胸が一杯になっていた矢先の報。

ご主人様からオファーが来たのはそれからすぐの事です。

「四十九日に盛大に妻の送る会をしたいんだ。仕事頼めないかな？」

「分かりました！即、日程調整してみます！どんな形でもやらせてください！」

そうお伝えするとすぐに日程調整に入りました。限られた時間でやりくりしていく中で「どうしても受けられない仕事」は出て来ます。でもその反面「どうしても受けたい仕事」もあるのです。

周囲にご理解ご協力をいただき、無理やり日程を調整させて頂くことでなんとかイベント数日前に時間を確保することが出来ました。こうした無理なお願いに「そういうことなら」と前

向きにご協力くださる周囲の温かいサポートは何よりありがたい事です。

「日程確保しました！全力でやらせて頂きます！」

「ありがとう！よろしくね！」

殊の外明るいご主人様の背負う使命感を肌身に感じ、自分のできる全てのモノを出す気持ちで演目を提案、構成しました。

当日は四十九日法要に約230人、その後行われた送る会に約160人、会場のライブハウスは収容人数をはるかに超えて、外に出れば長い参列者の列。

送る会の音楽演奏者だけで60名を超えます。

集まった皆様、懸命に取り仕切のご主人様、何より、天国へ旅立つ奥様へ最高の一杯を創っていきます。



まずは献杯。

よくウオッカやウイスキーに書かれているスピリッツという表記、蒸留酒という意味ですが原点にあるのは文字通り、「命の水」。

奥様の大好きな林檎に奥様への想いを込めて、ニッカのアップルブランデーを燃やし、その火を皆様と見つめ奥様を悼み、そこへ、奥様の大好きなリンゴ農家のりんごジュースを注ぎ、献杯させて頂きました。

次に、奥様へのカクテル。

吹奏楽団が奏でる「リトルマーメイド」をバックにステージ上で林檎をテーマとしたカクテルを、作って行きます。

カクテル名は「ミュージズ～天に召される奥様へ～」

音楽家の奥様を迎える神様はなんだろう？とイメージした時、ギリシャ神話の9人の女神「ミュージズ」が心に浮かびました。音楽の女神でもあり「ミュージック」の原語でもあります。赤いリンゴはきっと女神様達も口にしていたものでしょうし、華やかな奥様のイメージにも重なりました。

完成したカクテルを祭壇に飾ると、鳴り響く素晴らしい生演奏をBGMに、終わった演者の方々に怒涛のごとくシェイカーを振って次々とカクテルを創って行きます。お手伝いして下さる2名の女性と、初めてお会いしたとは思えないチームワークで臨機応変に、そして楽しみながらグラスを手渡して行きます。

フィナーレはご主人様のボーカルで earth, wind & fire の「september」で大団円。

「生前の奥様にカクテルを飲んで頂きたかった」という心のしこりは最高の形で参加者すべての方々と共に一生忘れない記憶となって、喉の奥へ消えていきました。

さて、、、それにしても何故私にオファーが来たのでしょうか？私でなくても他にもかわりになる人はいたんじゃないでしょうか？

オファーを受けた時からあったその疑問が完全に溶けたのは、全てが終わった翌日の、ご主人様からのお礼の投稿からでした。

奥様が亡くなられる前に、ご主人様はコンシェルジュバーテンダーのことを色々とお話していたんですね。

だから最期の約束になり、その約束を果たすためにオファーをしてくださったのです。

それを知った時、たくさんの感情が胸の中で溢れました。

最期まで諦めずに生きた奥様の想い、奥様を心身で支え続けたご主人様の想い、そのお二人の思いの込められたオファーへの感謝と感動、、、、。



そして届いたご主人様からのメッセージ。

「ありがとう！お陰で暖かい会になりました。
依頼してよかった。満足でした！！」

そして当日カクテルを飲んで頂いた方々からの
たくさんの「ご馳走さま！ありがとうございます
ます！美味しかったです！」という言葉。

様々な思いが巡り、1日中胸が一杯でした。

そして改めて思った事、、、

「人に寄り添えるコンシェルジュバーテンダー
として生涯進んでいこう」
という決意です。

人から見れば大変なことばかりかもしれませんが。
それでもこれほどの感動を共に創れる仕事
は、他に見つけれません。

サービス業について20年、、、ようやく見
つけた「カタチのある感動のサービス」で、こ
の先も邁進していきます。

もしあなたに、本当に大切な記念日やイベン
トがあれば、ぜひお声がけください。

コンシェルジュバーテンダーとして
「あなたの想いをグラスに注ぎます」。
そして一生の記憶に残る感動をお届けしますの
で。それではまたどこかで！



コンシェルジュバーテンダー 内田高史✽プロフィール✽

2004年東洋大学社会学部卒

英会話スクールの事務スタッフをしながらシティーホテルのウェイターとして語学とサービスを学ぶ
という実践的な形でホテルキャリアをスタート

パシフィックホテル東京(品川)→スターホテル東京(新宿)→新高輪プリンスホテル(品川)→ホテルミ
クラス(熱海)とホテルを歩きながら日々研鑽を積み、現在は関東近郊の会員制ホテルのメインバ
ーテンダーとしてカウンターに立ちながら、出張メインのコンシェルジュバーテンダーとして様々な
分野に関わって来たからこそ出来るアイデアやサービスで結婚式やイベントなどで日々カクテル創
りに邁進している。